

新たな参加者も増え、大盛況です！  
～新潟大学医学部健康講座塾～

6月から1月にかけて、新潟大学医学部健康講座塾が10講座開催されました。講師とテーマは次のとおりです。

- ・6月15日 整形外科講座① 今井教雄特任准教授  
『骨粗しょう症を防ぐために』
- ・7月12日 整形外科講座② 谷藤理助教  
『変形性膝関節症の保存療法と手術療法』
- ・8月7日 消化器内科講座 寺井崇二教授  
『新潟大学医学部 健康寿命延伸・消化器疾患先制医学講座  
これからの取り組み』
- ・8月22日 整形外科講座③ 渡辺慶講師  
『腰痛の病気とその対策～健康長寿を目指して～』
- ・10月10日 耳鼻咽喉科講座 堀井新教授  
『高齢者のめまいとふらつきについて』
- ・11月1日 呼吸器・感染症内科講座 菊地利明教授  
『肺の寿命を延ばしませんか？』
- ・11月16日 腎・膠原病内科講座 成田一衛教授  
『今日からできる！じんぞうを守る習慣は健康に良い』
- ・11月27日 神経内科講座 小野寺理教授  
『認知症の方にどう向き合うか』
- ・12月13日 循環器内科講座 伊藤正洋准教授  
『心臓のお話し』
- ・1月24日 泌尿器科講座 富田善彦教授  
『排尿にかかわる病気と治療』



発行:阿賀野市 民生部地域医療推進課  
TEL 0250-61-2503(直通)  
FAX 0250-62-0281  
E-mail: chiikiryo@city.agano.niigata.jp

10回で延943人の参加があり、周辺地区からの新たな参加者も増え、大変好評でした。

講演の後は、あがの市民病院のスタッフ(健康管理センター保健師、感染管理認定看護師、理学療法士、薬剤師等)や市職員(健康推進課、社会福祉課、消防本部等)による、講演内容に関連した実践指導や予防講話、また、健康体操インストラクターによる運動指導等が行われ、知識と実践の両面から健康寿命を延ばす取り組みが紹介されました。

参加者からは毎回、「なかなか聞く機会のない専門的な病気や治療のお話を、わかりやすくお話しいただきありがたい。」「ユーモアを交えた講演で楽しく聞くことが出来た。」「明日から予防に取り組もうという気持ちになれた。」という声が多く聞かれました。



寺井教授



堀井教授



菊地教授



成田教授



富田教授



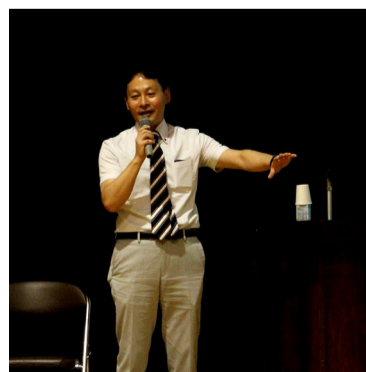
小野寺教授



今井特任准教授



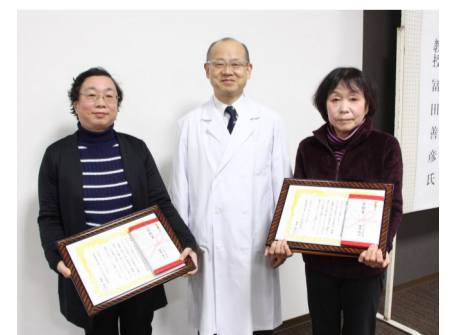
谷藤助教



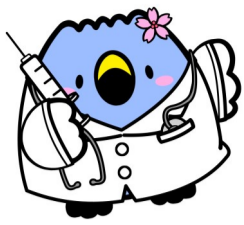
渡辺講師



伊藤准教授



藤森院長と皆勤賞の受講者



# 『地域医療を守るみんなの“わ”』 ～あがの地域医療フォーラム～

平成30年10月27日（土）水原保健センターで開催され、市民83人が参加しました。

＜基調講演＞ 新潟県福祉保健部福祉保健課参与（医療政策担当）神田健史氏

## 「地域医療を守り育てる住民活動」

新潟県は、人口に対する医師数が少なく、平成26年で人口10万人あたり200.9人（全国は244.9人）。医師不足の原因は医師養成数の不足や臨床研修病院の自由化、卒後定着数の減少等さまざまあるが、患者意識の変化や専門分化も大きく影響している。医師も患者も必要以上に高い専門性を求める傾向が、地域で幅広い疾患・症状の診療を行える医師の不足を招いている。医師と患者さんとお互いを尊重できる、そういった昔ながらの関係性を大切にすることが、地域の医療を守ることにつながる。

“地域医療を守り・育てる住民活動”は

- ① 地域医療の現場を見る・知る
- ② 地域医療を守るために出来ることをやる
- ③ これからの地域医療を担う人材を育む

という活動で、全国の多くの地域での事例が紹介され、この活動を市、医療機関、市民、それぞれが取り組む中で、

“市民の責務”として、

- かかりつけ医を持つ
- 適正な受診（時間内の受診等）
- 医師等への感謝
- 検診、健康診査の積極的受診、日頃からの健康管理

に一人ひとりが取り組むことが、地域医療を守ることにつながる、とのお話がありました。

## ＜シンポジウム

### 「地域医療を守るみんなの“わ”」＞

あがの市民病院の藤森院長からコーディネーターを務めていただき、3人の方から発表していただきました。



### 鈴木基子氏（あがの市民病院ボランティア）

「あがの市民病院でのボランティア活動を通して」

あがの市民病院で毎週水曜の朝、ピアノ演奏のボランティアを



12年間続けてきた。初めは曲選びや練習等大変だったが、演奏を楽しみにしてくれる患者さんや、演奏のある日に聴きにきてくれる地域の人の声に励まされて、自分のために続けてこられた。自分のできる事で他の人の役に立てるなら、これからもできる限り続けて行きたい、と話されました。

### ★★ 参加者の感想より ★★

- ・医療・医師の現実を知る機会になった。受診の仕方など自分のことで協力したい。
- ・地域医療を守り育てる『住民活動』があることを初めて知った。
- ・12年間のボランティア、大変感動した。励まされた人が大勢いたと思う。ピアノコンサートに行ってみよう。
- ・在宅医療と病院のつながりをわかりやすく説明していただき、参考になった。
- ・自分の終末は早くから考えておいた方が家族のためになるので、話し合いたいと思った。聞いて良かった。
- ・隣近所の大切さがよくわかった。地域の人と助け合い生活していきたい。



### 本田吉穂氏（本田脳神経外科クリニック院長）

「地域医療を支える病診連携」

阿賀野市の在宅医療における病診連携の現状について、診療所の立場から報告がありました。

あがの市民病院は在宅療養後方支援病院となっているので、かかりつけ医を通して事前に登録をしておけば、必要時に入院でき、病状急変時の紹介受診もスムーズにできる。在宅診療している患者さんでは、ご自宅で自分が看取る場合もある。登録の際に、終末期の医療処置への希望を本人（または代理判断者）に聞き、医師による指示書を作成している。心肺停止の場合、心肺蘇生術をしてほしいか、心肺停止ではない場合どこまでの医療処置を望むか、等の意思表示を書面に残し、病状や介護状況が変化した時や、本人の申し出があった場合は適宜見直していく。自分の終末期の希望を家族にもきちんと伝えておくことは大切、とのお話がありました。



### 清野真弓氏（あがの市民病院地域連携支援部マネージャー）

「みんなでつなごう医療と地域」

市の高齢化率は29年度で30.7%、人口は減少傾向。家族構成も昔とは変わり、高齢者世帯・単身高齢者が17.6%となっている。住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるよう、地域内でサポートしあうシステムが「地域包括ケアシステム」。自助・互助・共助・公助の中で、自分の健康管理、住民同士の助け合いの活動が必要になっている。

病院で相談を受けている中で、近所の方の見守りや、日常生活のちょっとした手助けで地域で暮らし続けている話を多く聞く。近所の皆様の力はとても大きい、というお話がありました。

